

【はじめに】

この実践は、平成26年度2月に行った。この単元では、1年間を振り返り、自分の成長に気付いたり、2年生になる意欲や希望を持ったりすることができるように、また、地域の保育所の新入児を招待し、小学校のことを教えてあげるという2本柱で活動を行った。実践を行う際には、以下の2点のことについて研究の柱とした。

①相手意識をはっきり持たせる

本単元は「自分の成長」を実感する中で、地域の保育所に通う新入児にむけて何をどのように伝えるのかなど、相手意識を持たせるように実践をおこなった。そのため「生活や出来事の交流」の内容も含むと考えた。また、相手意識を持たせることで、目標をしっかりと認識させることができるのではないかと考えた。

②保小の連携をはかる

地域の保育所と小学校は、徒歩1分という恵まれた距離にあり、1・2年生の生活科や児童会行事、学校行事など1年間を通じて数回の交流を毎年行っている。その中でも本単元は保育所から小学校の接続をスムーズにするために行い、新入児が1年生教室を訪れ、学校内を歩いたり、1年生と一緒に活動したりしている。

第1学年：内容（8）「生活や出来事の交流」 内容（9）「自分の成長」

指導者 甲州市立 大和小学校 岩下 亜希子

「ともだちいっぱい おもいでいっぱい」

1 単元の目標

一年間を振り返り、楽しかった出来事を思い出したり、資料をまとめたりしながら、自分の成長に気付いたり、2年生になる意欲や希望を持ったりできるようにする。また、招待する新入児に、学校生活の楽しさを伝える活動を計画・工夫することを通して、身近な人々と関ることの楽しさがわかり、進んで交流することができるようにする。

2 単元の概要

4名の児童は小学校に入学してから、様々な体験をしてきた。学校施設の利用方法、先生など学校生活を支えている人の存在などを知り、地域の探検などいろいろな活動を行う中で、理解を深め、成長してきた。その様子を振り返ることで、自分たちが学校生活の中で学んだことや自分たちの成長に気付かせたい。

また、10月に2年生と合同で行ったお年寄りとの交流会を計画し、活動した。そこでの経験を活かし、自分たちが新入児を招待する会を計画していく。伝えたいことや伝える方法を考えることで、いろいろな人とかかわる楽しさがわかったり、進んで交流したりできるようにしていきたい。学校生活の楽しさや友達の成長にも気づき、これからの学校生活の意欲につなげていきたい。

また、1年間を振り返り、楽しかった出来事を思い出したり、資料をまとめたりしながら、新入児を招待し、一緒に活動することで、2年生になる意欲や希望、自覚を持たせていきたい。

3 単元の評価規準

生活への関心・ 意欲・態度	○新入児に伝えたいことを、見つけたり、表現したりしようとしている。 ○自分自身の成長を思い出し、意欲的に生活することができる。
活動や体験について の思考・表現	○一年間の出来事を振り返り、新入児に学校生活の楽しさを工夫して教えたり、できるようになったことを発表したり、いきいきと活動することができる。
身近な環境や自分 についての気付き	○一年間を振り返ることで、新入児を招待することで相手に応じた接し方が必要なことや自分ができるようになったことなど自分の成長したことに気付くことができる。

4 指導と評価の計画

小単元名 (時数)	主な学習活動	評価について	評価方法
1年間を 振り返ろう (6時間)	[小単元の目標] 1年間の学校生活を思い出し、新入児にどんな出来事について伝えたいか考え、表現できるようにする。		
	○1年間を振り返り、どんな行事があったか、どんな勉強をしたか、思い出し、新入児に伝えたいことを話し合う。(2時間)	関：1年生の出来事を振り返り、新入児にどんな出来事を伝えたいことを考えようとしている。	発言・発表 ワークシート
	○思い出の紙芝居を作成する。完成した紙芝居を読みあい、お互いによいところや直した方がいいところを伝えあう。(4時間)	思：新入児に伝えたい出来事について、絵や文で表現している。	行動観察 作品 発言など
	○招待する会の計画を立てる。		
	[小単元の目標] 学校を案内し、学校生活で教えてあげたいことを考えたり、新入児と交流する計画を立てることができるようにする。		
	○学校生活の中で新入児に教えてあげたいことを話し合い、伝える準備を	思：学校生活の中で新入児に伝えたいことを表現している	作品 行動観察 発言 カードなど

	<p>する。(劇やペープサートなど) (2.5時間)</p> <p>○招待する会をする。(1.5時間)</p> <p>○招待する会を振り返る(1時間)</p>	<p>気：相手に応じた接し方をすることやわかりやすく伝えるための手立てに気付いている。</p>	
<p>もうすぐ 2年生 (5時間)</p>	<p>[小単元の目標] 1年間の自分の学校生活を振り返り、自分の成長を実感し、2年生になる意欲を持つことができるようにする。</p> <p>○生活科で書きためた資料を集めてまとったり、どんなことができるようになったのか考えたり、自分の成長を発表する方法を考える。(2時間)</p> <p>○2年生にインタビューして2年生の生活を知り、2年生になる意欲を持つ。(2時間)</p> <p>○できるようになったことや2年生になったら頑張ることを発表する。(1時間)</p>	<p>思・気：1年間を振り返り、自分の成長に気付き、みんなに紹介している。</p> <p>意：2年生になって頑張りたいことを考えるなど2年生になる意欲を持っている。</p>	<p>発言 ワークシート 発表など</p>

5 指導の具体例

(1) 日時 平成27年2月4日(水)

(2) 場所 甲州市立大和小学校 1年教室

(3) 本時の目標

○新入児に学校生活についてわかりやすく教えてあげられるように工夫しようとしている。

	主な活動	指導上の留意点
--	------	---------

つかむ 10分	<p>○めあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>らいねんの1ねんせいにわかりやすく、おしえてあげられるように。 くふうしよう。</p> </div> <p>・わかりやすくするためには、どんなことに気をつけたらいいのか工夫する観点を確認する。</p>	<p>□工夫する観点 声の大きさ・話すスピード・動き方など (内容に関して) わかりにくかったところ・つけたしたらわかりやすいことなど・</p>
活動する 25分	<p>○発表を1組ずつ行う。</p> <p>・1組が発表を行い、残りの人はそれを見て、アドバイスカードを記入する。</p> <p>・アドバイスカードを読み、発表者にアドバイスをを行う。</p> <p>・アドバイスを受け、改善することを決める。</p>	<p>□アドバイスカードは見終わってから書く。 □アドバイスカードは2種類用意し、「よかったところ」と「こうしたらいいよ」と分けて書けるようにする。 □友達から受けたアドバイスがわかるように板書しておく。 気：友達の発表を聞き、良かった点や工夫したほうがいい点に気付き、伝えようとしている。</p>
まとめる 10分	<p>○受けたアドバイスをもとに、自分たちが工夫するところを伝えもう一度練習を行う。</p>	<p>□練習する前に、友達から受けたアドバイスを確認する。 思：アドバイスをもとにわかりやすい伝え方の工夫をしている。</p>

(4) アドバイスカード

それぞれ違う色の上質紙に印刷し、どちらのカードかわかりやすくする。

(資料1) アドバイスカード

さんへ

と いいよ

さんへ

が よかったよ

6 授業内容 子どもの姿 評価の実際

1 1年間を振り返ろう

1年間の出来事を振り返り、どんな行事を行ったか、どんな学習をしたか思い出し、思いっくままに、子どもが挙げていき、それを4月から順番に整理していった。いろいろな出来事を思い出す中で、来年1年生になる保育所の友達（新入児）にどんなことを教えてあげたいか、考えさせた。子どもの思いとして、保育所にはない行事や勉強について教えてあげたい、給食など保育所とは違うところを教えてあげたいという意見が出された。行事については、「楽しいことがたくさんあったので、それを教えてあげたい。」という思いが強くでていて、紙芝居の前書き（資料2）にも、その気持ちが表れていた。

そこで、どうすれば保育所にはない行事を教えてあげられるか考え、紙芝居を作ることにした。1人2枚ずつかくことにし、相談し、8つの出来事を決めた。できた紙芝居を読み合い、アドバイスカードを記入した。よかったところや読み方で気をつけたらいいこと、内容的につけ加えたらいいと思うことなどをアドバイスしあい、紙芝居を完成させた。

アドバイスカードを書くにあたり、「くふうポイント」(資料3)を提示した。実際には、①～⑤を短冊状に仕上げ、一つずつのポイントを確認しながら提示した。

アドバイスカードを書くときに、紙芝居を1人ずつ読んで、3人で聞くという方法で行ったため、出されたアドバイスは「①こえの大きさ」や「②はなすスピード」に関係することが多かった。実際に読んでいる様子を撮影し、みんなで見てから、アドバイスカードを書いてもよかったと実践後に感じた。そうすれば、紙芝居のめくり方や自分の声の大きさなどもわかりやすかったかと思った。

(資料2) 紙芝居前書き



(資料3) くふうポイント

- くふうポイント
- ① こえの大きさ
 - ② はなすスピード
 - ③ うごきかた
 - ④ わかりにくいところ
 - ⑤ つけたすこと

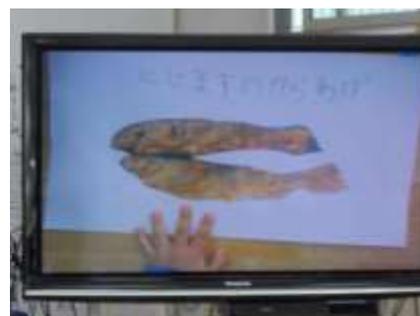
また、2グループに分かれて「学校生活のこと」「給食のこと」をそれぞれ教えてあげることにした。新入児にどんなことを教えたいのかをそれぞれのグループで相談した。また、伝える方法も、新入児にわかりやすいように工夫するように指導した。

「学校生活のこと」のグループでは、集団登校をして学校まで歩いてくること、いろいろな教科があることを教えてあげたい、と2つのことに決めた。特に、集団登校については、親と一緒に登所していた保育所の時と大きく違うという認識があり、ペープサートを作り、説明しようと計画した。教科に関係しては、全部の勉強のことを教えてあげたい、という思いがあったが、自分が保育園児の時に知らなかったことを教えてあげるといいよ、というアドバイスを出したので、「体育」と「英語活動」のことを説明したいと2つのことに絞っていた。

「給食のこと」のグループは、給食着を着て、配膳を自分たちですることと、メニューの違いを伝えることにした。特にメニューの違いについては、パンがでること、ニジマスの空揚げがでて、頭からしっぽまで食べること、牛乳がビンであることを教えてあげたいという意欲を持っていた。メニューや配膳している写真を取り、実物投影機(資料4)を使ったり、実際に給食着を来て見せたりと工夫して計画していた。

(資料4)

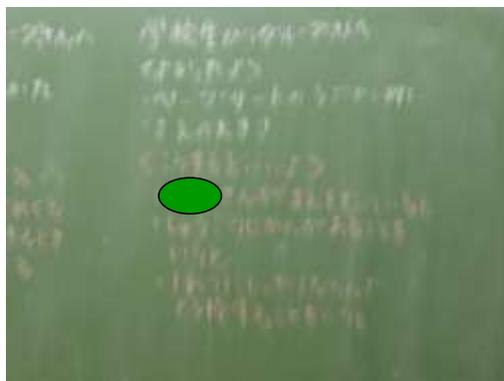
実物投影機使用の様子



この活動でもアドバイスカードを使って、自分たちの発表を聞きあい、新入児にわかりやすくなるように工夫する活動を行った。紙芝居と時に使った「くふうポイント」とアドバイスカードを使用したため、活動はスムーズだった。出されたアドバイスは、紙芝居の時よりも多かった。特に、ペープ

サートの動かし方や写真の提示の仕方など、「③うごきかた」に関するものが多かった。また、集団登校の様子については「⑤つけたすこと」があった。(資料5) 受け取ったアドバイスをもとに、どんなことに気をつけたらいいか、グループごと確認し、それぞれ練習を行った。

(資料5) グループへのアドバイス



新入児を小学校に招待し、「大和小がわかる会」を行った。

(資料6) 交流会の様子

初めの会を行った後、まず最初に、学校探検を行った。1年生が使う、4つの特別教室(図書室・パソコン室・音楽室・ランチルーム)を4グループに分かれて案内した。事前に特別教室の説明を1人1カ所ずつ書き、原稿を作っておいた。特別教室を4グループに分かれて案内し、説明をした。また、新入児に楽しんでほしいという子どもたちの思いから、ハンコが入った宝箱を各特別教室内に用意した。宝箱は子どもたちが手作りし、設置場所も難しすぎない場所を選んでいった。教室の説明をした後、新入児に見つけてもらった。



次に、行事の紙芝居を読んだ。練習を何回もしたので、とてもスムーズに読むことができ、子どもたちも大変満足そうだった。

最後に、「学校生活のこと」と「給食のこと」についての説明を行った。アドバイスしてもらったことを活かして内容などをつけたしたり、動き方を工夫したりすることができていた。



(資料7) ワークシート

2 もうすぐ 2 年 生 できるようになったこと

生活科でかきためた資料を集めてまとめたり、整理したりしながらどんなことができるようになったのか考えた。「字がうまくなった」「なわとびの技が跳べるようになった」など多くの意見が出された。その中で、自分ができるようになったことをワークシートに書き、その中からお家の人に知らせたいことを選び、発表の方法を考えた。

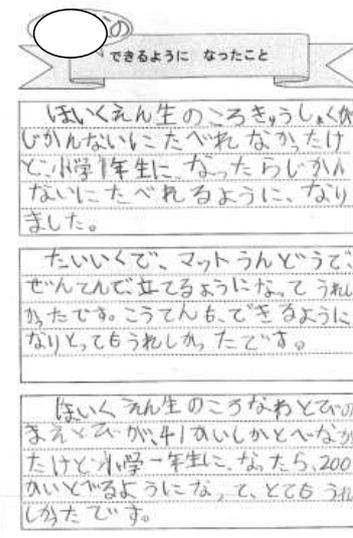
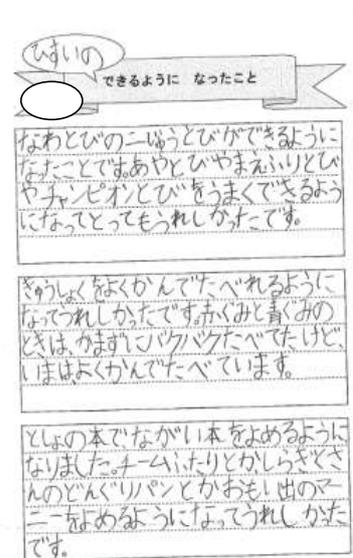
なわとびを披露したり、英語活動の時間のことを話したり、給食のことが早く食べられることを発表したり、一人一人が自分の成長に気づき、発表の準備をすることができた。

また、2年生になる意欲を持たせるために、2年生にインタビューを行った。2年生になると学習することや掃除場所について係活動についてなどインタビューし、1年生の時と違うことがあるんだ、と2年生になる実感を持つことができた。その後、自分が2年生になって頑張りたいことを決め、お家の人や友達に知らせることにした。

3学期の授業参観の時に、「できるようになったこと・2年生になってがんばりたいこと発表会」を行った。

(資料8)

できるようになったこと・2年生になってがんばりたいこと発表会の様子



保小の連携について

大和小学校は、地域の保育所と徒歩1分という近さにあり、日常的に園児の散歩コースになっていたり、学校行事の芸術鑑賞や児童会のお祭りに保育園児が来たり、交流が行われている。

また、1・2年生の生活科でも探検に行ったり、お礼として

(資料9) お礼読み聞かせ

読み聞かせに行ったり、2年生のお祭りに年長児が参加したりしている。

また、夏期休業中に午前中、小学校全職員が交代で参観し、午後交流会を行い、共通の課題を見つけ、子どもたちにとってよりよい接続をめざしている。



7 成果と課題

・活動する中で、だれに向かって自分たちが発表するのか、ということ意識するようにしてきた。相手意識をはっきりと持たせることはねらいを達成するために重要かつ必要な事項である。今回の研究授業の中で、板書に書き忘れてしまったが、子どもたちは、「聞くときのポイント」の中で押さえられていた。

・「大和小がわかる会」というネーミングが目的意識であった。発表の内容も「保育所との違い」という視点で子どもたちに考えさせ、徹底していた。

・子どもたちに考えさせたり、話し合わせたりしながら次の学習活動を仕組んでいくことが生活科を生き生きと学ぶことにつながる。

・保幼小の連携については、立地条件など地域によってできるところとできないところがある。十分な立地条件を活かし、それぞれの学校なりに行っていく必要がある。

本単元で制作した紙芝居は、1年生教室に飾られている。

